

3) 国語総合の研究授業

ア 授業デザイン

教科	国語	科目	国語総合 古典	授業者	松永 知世
実施日時	H30年 11月 5日		4時限	対象クラス	1年 F組 (31人)

【第一段階 求められている結果】 ※ 理解の6側面(説明、解釈、応用、パースペクティブ、共感、自己認識)

単元名	史伝 「鶏鳴狗盗」
① 単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史伝を読み味わい、面白さを感じることができる。 ・ 文章構造を意識して漢文を読むことができる。 ・ 日常生活で、故事成語などを適切に使おうとする態度や能力を身につけることができる。
② 本質的な問い	・ 我々は、故事や諺とどのような姿勢で関わればよいのか。
③ 理解 重大観念と誤解	・ 故事、諺や格言は、時と場合により評価が分かれたり、曲解されたりすることがあるため、それらの言葉の出現した背景を併せて理解することが大切である。
④ 知識 ⑤ 技術	④ 孟嘗君や孟嘗君のエピソードに関するキーワード(例: 齊、秦、食客 など) ⑤ 文章構造を意識して本文を読み、人物や出来事についての情報を整理する。 ⑤ 使役や受け身などの句形を含む文章の書き下し、訓点付け等ができる。 ⑤ 曲解されたり、評価が分かれたりする言葉の例を他にも挙げられる。

【第二段階 評価のための証拠】 ※ 該当する項目を枠で括る又は記入する。

評価のための証拠	パフォーマンス課題、 <input type="checkbox"/> テスト、小論文、振り返りシート、作品、 <input type="checkbox"/> 生徒の応答、 <input type="checkbox"/> 生徒の質問、 <input type="checkbox"/> 観察 <input type="checkbox"/> その他 (ワークシート)
ルーブリック	<input type="checkbox"/> 有 (別紙) ・ 無

【第三段階 学習計画】 ※ W (目標) H (関心) E (経験) R (振り返り) E (評価) T (調整) O (組織化)

1 各授業のテーマ (主となる学習活動の内容や問い等)

第1時の内容	漢文訓読の基礎知識を復習。十八史略とはどのような歴史書か、史記との相違点は何か。
第2時の内容	漢文の基本構造、句形を確認。書き下し文を確認する。孟嘗君とはどのような人物か。
第3時の内容	漢文の基本構造、句形を確認。狗盗までのエピソードを現代語訳。戦国時代の状況変化の激しさはどのようなものであったか。
第4時の内容	漢文の基本構造、句形を確認。全文を現代語訳。孟嘗君はなぜ危機的状況を乗り切ることができたのか。
第5時の内容 (本時)	孟嘗君は本当に尊敬に値する人物だといえるのか。「鶏鳴狗盗」の真の意味は何か。なぜ後世まで残ったのか。

2 予習 (有) ・ 無)

内容	「漁夫の利」の現在の意味を調べる。
分量	便覧掲載の故事成語、諺に目を通す。(ワークシート)

3 問いの構造 ※ Ideasの問いはQI、Connectionsの問いはQC、Extensionsの問いはQEと記入する。

① つかみの発問 (導入の発問)	「漁夫の利」が現在どのような意味で使われているか。(本来の意味、文脈とは乖離があることを確認。)
② 課題提示の発問	私たちは故事成語とどのような姿勢で関わればよいのか。
③ 思考拡散の発問	「鶏鳴狗盗」という言葉は、現在どのような意味や状況で使われていると思うか。
④ 思考焦点化発問	本文中のエピソードで、孟嘗君を賞賛できない箇所はどこか。「鶏鳴狗盗」が持つ負の意味は何だろうか。個人→ペア (王安石、司馬遷による孟嘗君批評の資料→孟嘗君への評価が一様でないことを確認。)
⑤ 思考深化の発問 (洞察促進発問)	それでもなお故事「鶏鳴狗盗」が後世に残り評価されているのはなぜか。個人→GW (文脈から司馬遷が孟嘗君をどのように評価したのかを総体的に捉えさせる。)
⑥ 評価の発問及び 生徒の質問	故事や諺が曲解されていたり評価が分かれたりする例は、これ以外にどのようなものが挙げられるか。個人(ワークシート)

イ 学習指導案

日時	平成30年11月5日(月) 4限	クラス	1年F組(男13人、女18人)	1F教室
教科書	新 探求国語総合 古典編 (桐原書店)	副教材	最新国語便覧(浜島書店) 漢文必携(桐原書店)	
単元名	史伝「鶏鳴狗盗」(十八史略)			
単元観 生徒観 指導観	<p>本単元は、生徒が初めて触れる史伝となる。戦国時代の四君の一人、孟嘗君が秦に捕らわれた際にどのように危機を脱したかを描いたもので、受け身や使役などの基本的な構文を含みつつ、その生き生きとした文体から戦国時代の人々の人間関係、生き方に興味を持って読むことのできる教材である。</p> <p>生徒はこれ以前に故事成語の単元で「推敲」「漁夫之利」「塞翁馬」を学習している。基本的な漢文の構造や訓点について学習し、音読したり文章を書き下したりすることができる。一方で古代中国に関する知識は乏しく、当時の思想や国同士の関係などの理解が不十分である。また、教師が想定するよりも語彙が乏しく、故事成語にも慣れ通じていない生徒が多い。</p> <p>また、10月実施の授業評価において、教師の説明や自身の知識理解に対するものはおおよそ高評価であったのに対し、「教材に興味を持つことができたか」という項目には半数ほどの生徒が「持てない」と回答している。生徒たちの授業への参加態度は表情豊かで、積極的に発言する姿も多々見られるが、これに反して古典教材に対する興味関心が低いということが分かる。原因としては、教材の背景に関する知識理解が十分でなく、教材の面白みにまでたどり着くことができないということ、また、教材と自分との距離が遠く、自身の生活に結びつけることができないということが考えられる。</p> <p>上記のことから、この教材を通して身につけさせたい力は大きく以下の3点である。1つは、基本的な漢文に関する構造や知識、および本文にもある受け身や使役の構文を音読、書き下し、白文に返り点をつけるなどの繰り返しの練習を通して漢文訓読力を身につけさせたい。</p> <p>加えて、中国戦国時代について国同士の関係などの基礎知識を身につけることで、本教材に出てくる人々の人間関係、国同士の緊迫したあり方、差し迫った状況などに興味をもたせ、漢文を読む楽しみを味わうことから、漢文を主体的に学習する態度・意欲を養いたい。</p> <p>さらに、故事成語、金言・金句の正しい意味を理解すると同時に、それらを適切に使うための姿勢や能力を培いたい。</p>			
単元の指導計画				
時	主なテーマ・問い	主な学習活動		評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 漢文訓読の基礎知識の復習。 十八史略とはどのような歴史書か。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読 便覧等を用いて、本教材に関わる事柄の基礎知識を得る。 		<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視 ワークシート
2	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の基本構造、句形の確認。(受け身) 孟嘗君とはどのような人物か。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読 第一段落から孟嘗君の情報を読み取る。 		<ul style="list-style-type: none"> ノート 定期考査
3	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の基本構造、句形の確認。(使役) 戦国時代の状況変化の激しさはどのようなものであったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読 「狗盗」までのエピソードを現代語訳し、当時の国同士の関係を把握する。 		
4	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の基本構造、句形の確認。 孟嘗君はなぜ危機的状況を脱することができたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読 全文を現代語訳し、「鶏鳴」の働きや差し迫った状況を読み味わう。 		
5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 「鶏鳴狗盗」の真の意味は何か。なぜ後世まで残ったのか。 孟嘗君は本当に尊敬に値する人物だと言えるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> エピソードを再度復習し、「鶏鳴狗盗」の多様な解釈と、原文に即した本来の意味との相違点を確認することで、故事や諺と自分がどのように関わっていくべきか考える。 		<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視 ワークシート 定期考査

<p>本時の目標</p>	<p>(1) 故事や諺の中には、評価が分かれたり現在では曲解されていたりするものも多くあることに気づくことができる。</p> <p>(2) 自分の身近にある故事や諺にはそれぞれに文脈や背景があることを意識し、それを適切に使おうとする態度や能力を身につけることができる。</p>		
<p>評価規準</p>	<p>別紙ルーブリック参照</p>		
<p>学習の展開</p>			
	<p>学習活動</p>	<p>指導上の留意点</p>	<p>評価方法</p>
<p>導入 5分</p>	<p>① 学習済みの故事成語「漁夫の利」について、現在どのような意味で使われており、エピソードとどのように乖離しているかを確認する。</p>	<p>・ 便覧の「故事成語」掲載箇所では、たとえ話のみの原文が載せられていることに注目させる。生徒は蘇代と恵王とのやりとりをすべて学習しているので、その乖離に気づくことができる。</p> <p>→ 故事が曲解される一例として本時の学習の動機付けとする。</p>	
<p>展開 40分</p>	<p>② 本時の課題を確認する。</p> <p>③ 前時までの復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 孟嘗君はどの国の人物か ・ 狗盗までのエピソードのまとめ ・ 鶏鳴までのエピソードのまとめ <p>④ 「鶏鳴狗盗」という言葉の現在の意味を予想する。(個人→ペア)</p> <p>〈予想される答え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大した能力でなくとも使えることがある。(芸は身を助く) ・ どんな人間のことも信じるのが大切である。 ・ 大した能力ではない。 <p>⑤ 「鶏鳴狗盗」というエピソード、孟嘗君という人物にも負の面があることに気づく。(個人→ペア)</p> <p>〈予想される答え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 狐白裘の用意がない ・ 戦って逃げるわけではない。その身を挺して助けてくれる部下はいない。 ・ 昭王の説得をすることができない。 <p>⑥ 王安石、司馬遷の孟嘗君の資料から、一様に「鶏鳴狗盗」という故事が賞賛されてきたわけではないことに気づく。(5分)</p>	<p>課題 私たちは故事成語とどのような姿勢で関わるとよいのか。</p> <p>問 「鶏鳴狗盗」という言葉は現在どのような意味や状況で使われていると思うか。</p> <p>問 本文中における孟嘗君を賞賛できない箇所はどこか。</p> <p>※ 答えが出ない場合 既習の「塞翁馬」の「塞翁」(先を見通す力がある)や、「漁夫之利」の蘇代(相手を説得する力がある)などと比較させる。</p> <p>王安石、司馬遷の資料を提示する。</p>	<p>・ 机間巡視(前時までの内容を理解しているか。)</p> <p>・ 机間巡視(教科書掲載の故事や人物であっても、負の面を持ち合わせていることに気づくことができたか。)</p>

	<p>⑦「鶏鳴狗盗」という言葉が後世に残った理由がどこにあるのか気づくことができる。(10分)</p> <p>〈予想される答え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人間や能力の存在を容認、尊重できる孟嘗君の度量の大きさや寛容性。 (cf:漢の武帝の不寛容さ) ・人を信じることの大切さ。 ・芝居や絵画などフィクションや芸術作品の題材として適当である。 <p>⑧現在「鶏鳴狗盗」という言葉がどのような意味で使われているのかを再確認する。</p> <p>また、その意味として「卑しい者」などのマイナス評価と、「くだらない技芸でも役に立つ」「つまらぬ人間も使いよう」などのプラス評価が併記されていることに気づく。</p> <p>(3分)</p>	<p>問 それでもなお「鶏鳴狗盗」のエピソードを含め、<u>孟嘗君という人物について賞賛できるのはどのような所か。</u></p> <p>※答えが出ない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司馬遷が批判的な評価もしながら、孟嘗君を史記に残したのにはどのような理由があるのかを考えさせる。(司馬遷が史記を記した背景には第1時で触れてある) ・「鶏鳴狗盗」という言葉が故事成語であることを再確認し、時代的差異も考慮させた上で、現代でも評価される側面としてどのような点が挙げられるのかを考えさせる。 <p>国語便覧と漢文必携を見比べ、その記述に相違があることに気づかせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視 (前時までの内容に加えて、独自の視点から故事を捉えることができただか。)
<p>まとめ 5分</p>	<p>⑨「鶏鳴狗盗」や「漁夫之利」の他に、曲解されたり評価が分かれたりする可能性のある言葉を挙げる。</p> <p>故事や諺、また格言などは、様々な解釈が存在するが、その言葉を生み出した文脈・状況や、その言葉が残った背景までを知ることによって、正しい意味や使い方を理解することができることに気づく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を踏まえて、予習で使用したワークシートに、「背景を調べれば違った見方ができるかもしれない」言葉にチェックを入れる。 ・予習の段階と、本時の1時間を経て自分の故事に対する見方がどのように変化したかをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート、机間巡視 (故事の背景まで想像することができるか。故事に対する興味関心が湧いているか。)

ウ ルーブリック

	評価の観点(評価の証拠)	S	A	B	C	D	
1	知識 (ノート、 観察、 定期考査、 模試、 週末課題)	戦国時代 漢文訓読	孟嘗君やその父、靖郭君田嬰と齊国との関係、戦国七国の力関係や状況、戦国の四君に関して正しい知識を持っている。	孟嘗君やその父、靖郭君田嬰と齊国との関係、戦国七国の力関係や状況について正しい知識を持っている。	孟嘗君やその父、靖郭君田嬰と齊国の関係、戦国七国の名前、秦が強大であったことを知っている。	孟嘗君が食客を多く抱えていたこと、齊国の人物であったこと、秦が強大であったことを知っている。	孟嘗君や戦国時代についての知識を身につけていない。
2	スキル (ノート、観察、定期考査、模試、週末課題)		難読語や基本的漢文の構造、使役と受け身の構文について、本教材掲載のもの以外にも、既習の教材や週末課題、模試などで出題されたものについての知識を身につけている。	難読語や基本的漢文の構造、使役と受け身の構文について、既習教材を含め、教科書掲載のものについての知識を身につけている。	難読語や基本的漢文の構造、使役と受け身の構文について、本教材掲載のものについては知識をほぼすべて身につけている。	難読語や基本的漢文の構造、使役と受け身の構文について、本教材掲載のものについての知識を5割程度身につけている。	難読語や基本的漢文の構造、使役と受け身の構文について、本教材掲載のものについての知識をほとんど身につけていない。
3	資質 (ノート、観察、ワークシート)		様々な文章について、基本的漢文の構造や構文から正確に本文を現代語訳し、登場人物の人間関係、行動やその心理を正しく読み取ることができる。	既習教材を含む教科書掲載の文章について、基本的漢文の構造や構文から正確に本文を現代語訳し、登場人物の人間関係や行動やその心理を正しく読み取ることができる。	本教材を、基本的漢文の構造や構文から正確に現代語訳し、登場人物の人間関係や行動、その心理をほぼ正しく読み取ることができる。	本教材を、基本的漢文の構造や構文から大まかに現代語訳し、登場人物の人間関係や行動、その心理を5割ほど読み取ることができる。	本教材を現代語訳することができない。登場人物の人間関係や行動、その心理を読み取ることがほぼできない。
			故事や諺、格言などについて、教師が提示したものの以外の言葉についても興味を持ち、それぞれの言葉の意味や背景を予測しつつ自ら調べる。	故事や諺、格言などについて、教師が提示したものの以外の言葉についても興味を持ち、それぞれの言葉の意味や背景を予測しつつ自ら調べる。	故事や諺、格言などについて、教師が示したものに興味を持ち、それぞれの言葉の意味や背景を予測しつつ自ら調べる。	故事や諺、格言などについて、教師が示したものに興味をもち、その意味や背景を予測する。	故事や諺、格言などについて、教師が示した言葉の意味や背景を予測しようとすることができない。

エ 振り返り

①「授業デザイン」、「ルーブリック」作成上の工夫

今回、漢文の授業を設計するにあたって最も考えたことは、「いかに生徒の深い学びに結びつけるか」ということであった。「深い学び」のためには生徒の興味関心を引き出すことが重要であるが、彼らにとって身近とはいえない「鶏鳴狗盗」の本文にどのように興味を持たせるのか、どのようなアプローチをすれば面白いと感じてもらえるのかということを中心に考えた。

そのための工夫が以下の2点である。まず一つに、授業者である自身の感じ方に重きを置いたことである。この教材では運の良い孟嘗君が淡々と秦から脱出したかのような描写がされており、私自身は初読の際に魅力を感じなかった。そこで、生徒にもその点に疑問を持たせることで、かえって教材の新たな面白みに気づけるのではないかと考えた。生徒たちは与えられた情報を無条件に受け入れ、その見方こそがすべてと思い込んでしまう傾向にある。しかしその見方に疑問を持つことができれば多角的な見方や文章の深い読み取りという「深い学び」へとつながると考えたのである。

二つ目に、生徒と中国戦国時代との距離を縮めることを大切にしたい。たとえば、既習教材「漁夫之利」と関連づけて戦国時代の地図を作成させたり、「もし自分が戦国時代のリーダーであったらどのような部下を持ちたいか。」と問うたりした。

その甲斐あってか、全体を通して生徒たちは楽しんで授業に取り組むことができ、教材自体にも親しみを感じたようである。

②授業実施（当日）の振り返り

当日の授業においては、生徒一人一人が興味を持って課題に取り組み、それぞれ孟嘗君や鶏鳴狗盗のエピソードに対して見識を深めることができた。特に孟嘗君のマイナス面を挙げさせる課題においては、最初は苦勞していた生徒も既習教材との比較をすることにより自分の意見を書くことができ、そのことが生徒たちの新たな視点につながったことは明らかである。



ただし、授業形態が「個人→ペア」×3回ということで、マンネリ化してしまった上に時間不足を招いてしまった。そのため生徒一人一人がしっかりと自分の意見をまとめられないままペアワークに入ってしまったたり、まとめの際に生徒に十分な気づきの時間を与えられず、教師の考える到達点に誘導してしまったりした点は反省すべきである。

③実施後の反省点

教材全体を通しては、基本的な漢文の知識を定着させる時間の確保が難しく、その目的を十分に果たせなかったという反省点がある。基礎基本を徹底してこそ面白みの深奥にたどり着くものだと考えるので、その点は今後の課題としたい。

また、今回の授業は生徒の気づきや考える力に頼った構成であった。ともすれば生徒の思いを脇に置いた授業構成にしてしまうのだが、大切なのは生徒自身がどのように考え学ぶかということである。今回の授業は、構成を精選することで生徒たちの力や学ぶ意志を引き出すことができる可能性を感じられたという点で今後につながるものであった。

(文責 松永)